

技能評価システム移転促進事業(SESPP) は日本式技能評価のノウハウを移転するため、ベトナム、カンボジア、インドネシア、ミャンマーを対象に日本の専門家によるセミナーや技能評価トライアルを実施しています。事業の運営事務局を株式会社 J T B 霞が関事業部にて受託しております。

日本式の技能評価の活用促進が図れるよう、J-Skills Newsでは、事業の取組など、お知らせしています。(年4回発行)

□2020年度の技能評価システム移転促進 (SESPP) 事業の実施計画

「技能評価システム移転促進事業 (SESPP)」では、日本式の技能検定のノウハウを移転することを目的として、対象国において各種研修を実施しています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、専門家を現地へ派遣しての研修が難しい状況となっています。本年度は順次オンラインでの研修に切り替えて実施する運びとなりました。ベトナム、カンボジア、ミャンマー、インドネシアでの研修を予定しております。

セミナー・トライアル	実施時期	実施場所
■ ベトナム ・CAD製図3級SAT/SET ・機械検査2級SAT ・機械検査2級SEM ・機械検査3級SET ・フリス盤3級SET (ベトナム : Level2) ・旋盤2級SET (ベトナム : Level3)	11月30日(月)～12月4日(金) 12月22日(火)～24日(木) 1月13日(水)～19日(火) 2月2日(火)～4日(木) 2月23日(火)～26日(金) 3月2日(火)～5日(金)	ハノイ工業職業訓練短大 (HIVC) ハノイ工業大学 (HaUI) ハノイ工業大学 (HaUI) サイゴン・ハイテク・パーク訓練センター (SHTP-TC) ハノイ工業大学 (HaUI) ハノイ工業職業訓練短大 (HIVC)
■ カンボジア ・電気系保全3級SEM/SET ・シーケンス制御3級SEM/SET	1月18日(月)～22日(金) 1月25日(月)～29日(金)	国立技術訓練大学 (NTTI) プレアコソマック工科職業訓練校 (PPI)
■ ミャンマー ・配電盤制御盤3級SAT/SET	2月15日(月)～19日(金)	技能訓練センター (STC)
■ インドネシア ・CAD製図2級SAT/SET又は3級SET ・プラスチック成形 2級SET/SAC	11月23日(月)～27日(金) 2月22日(月)～26日(金)	松下ゴーベル財団 (YMG) KMK Plastics Indonesia
■ 本邦研修 ・電気系保全 3級SEM	2月22日(月)～3月2日(火)	

※ タイトルに下線のあるセミナー・トライアルはオンライン研修で実施します。

SEM : Skills Evaluation Method 技能評価技法研修 SET : Skills Evaluation Trial 技能評価トライアル
 SAT : Skills Assessor Training 技能評価者講習 SAC : Skill Assessor Certificate 技能評価者認定

□SESPP事業の成功事例紹介（タイ）

■タイ王国における国家技能検定「シーケンス制御（PLC）」の現状

J-Skill NewsではSESPP事業の過去の取り組みと成功事例をご紹介します。

10月初旬、タイ王国大使館のティーラサック参事官（労働担当）から、タイにおけるPLCによるシーケンス制御の国家技能検定の現状について話を伺う機会を頂きました。なお、同氏は2017年～2018年の間、AHRDA（自動車人材育成学院）にてJICA専門家の協力を得て、シーケンス制御（PLC）を国家検定化するための業務に取り組まれていました。

1. シーケンス制御（PLC）が国家技能検定として導入された背景

2017年に国策として、産業の生産性向上を担う人材育成、自動化、ロボット化の推進が図られることとなりました。一方、自動車産業界は製造ラインの自動化を担う技能者の育成を重視した能力開発が急務となっていました。

製造ラインの自動化のためにはPLCは必須の技術であり、シーケンス制御（PLC）は、国策と産業界のニーズとがマッチした職種として、国家検定化に向けた取り組みを後押ししました。加えて、JICA及びSESPPの支援も大きな助けとなりました。

JICA専門家の協力（2017年4月～2018年3月）により、国家技能検定に必要な実技試験問題、学科試験問題を作成することができ、企業への広報も効果的に行うことができました。SESPP支援によって、シーケンス制御（PLC）の実技試験の実施・運営方法を学ぶことができ、評価者の育成に役立ちました。

国策、産業界のニーズ、JICA及びSESPPの支援という3つの要因がタイミングよく機能し、2018年にシーケンス制御（PLC）が国家技能検定として認定されました。

2. シーケンス制御（PLC）の国家技能検定の現状

国家技能検定は、最上位のレベル3（日本の1級に相当）、レベル2（同2級に相当）及びレベル1（同3級に相当）の等級で構成されています。検定料は、レベル3：200バーツ、レベル2：150バーツ、レベル1：100バーツです。（※1バーツ＝約3.37円）

労働省技能開発局（DSD：Department of Skill Development）では、シーケンス制御（PLC）の国家技能検定が実施できる試験センターの整備を進めており、現在、政府の試験センター8施設、民間の試験センター1施設で国家技能検定を実施できる状況にあります。

現在、シーケンス制御（PLC）レベル1が実施されており、2019年は受検者62人（内、合格者48人）、2020年は受検者46人（内、合格者31人）でした。

レベル2に関しては、試験問題（実技と学科）は整備されていますが、評価者が養成されていない関係で実施されていません。

現在、レベル1の検定を担当できる評価者は20～30人です。受検者ニーズの多さや試験センターの数を考慮すると、評価者の数を増やす必要があります。なお、評価者はDSDが所掌する技能開発促進委員会が定めた評価者訓練（3日間＝18時間）を通して養成されます。



タイ王国大使館 ティーラサック参事官

3. 今後の展望

日系自動車企業、自動車部品製造企業では、製造ラインの自動化、ロボット化を担う人材養成を重視しており、PLCの活用技術も重視しています。その関係でシーケンス制御（PLC）は、旋盤、金属プレス加工等の職種に比べて訓練ニーズが多く、訓練修了後に国家技能検定を受検する人も多くいます。そのために、多くの受検者ニーズに対応できるように、より多くの評価者を養成し、さらに企業が要望する上位等級（レベル2以上）を担当できる評価者を養成して、まずは、レベル2が実施できる体制を整備することが急務となっています。このような状況を勘案して、DSDでは2021年にシーケンス制御（PLC）レベル2の実施を担当する評価者を養成し、レベル2の国家技能検定を実施すること、併せて評価者を増員してレベル1の受検機会を増やすことを目指しています。

ティエラサック参事官様、ご協力有難うございました。

今後ともSESPP事業へのご理解とご協力をお願いいたします。

□日本の技能検定について

■日本の技能検定概要

日本の技能検定は、労働者の技能習得意欲を高めること、技能に対する社会の評価を高め、労働者の技能と地位の向上を図ることを目的に1959年度にスタートしました。

今日では、毎年80万人を超える方が受検するメジャーな資格の一つになっています。

■技能検定の等級

等級は上位から特級、1級及び単一等級、2級、3級があり、試験のレベルは次のようになっています。

特級：管理者または監督者が通常有すべき技能及びこれに関する知識

1級及び単一等級：上級技能者（10年以上の経験者）が通常有すべき技能及びこれに関する知識

2級：中級技能者（5年以上の経験者）が通常有すべき技能及びこれに関する知識

3級：初級技能者が通常有すべき技能及びこれに関する知識

とりわけ3級は、工業高校生等を対象に改定された経緯があって、専門高校生の受検が多く、合格証は、就職活動の際に、自分をアピールする材料になるとのことです。

■実施体制

技能検定の実施・運営は、4つの組織が役割を分担して取り組んでいます。主な役割は表に示す通りです。実際に試験を実施する際には、PVADAが委嘱した技能検定委員が、その実施・運営（準備・実施・採点評価）に大きな役割を果たしています。SESPPで実施している評価者講習、技能評価トライアルでは、このような評価者（技能検定委員）の養成を目指しています。

厚生労働省	中央職業能力開発協会 (JAVADA)	都道府県	都道府県職業能力開発協会 (PVADA)
<ul style="list-style-type: none"> 技能検定基準と細目の作成 試験問題、採点基準等の認定 試験合否基準の決定 合格証の交付（1級以上） 	<ul style="list-style-type: none"> 技能検定の基準と細目に基づいて試験問題を作成 実施要領、採点基準の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 受検手数料の設定 実施計画の策定 実施公示 合否決定、合格発表 合格証の交付（2級と3級） 	<ul style="list-style-type: none"> 受検者募集、受付 受検手数料徴収 技能検定委員等を委嘱し、試験実施 試験の合否判定

■2019年度（令和元年度）日本の技能検定実施状況について

2019年度は、87.1万人が受検し、うち36.3万人が合格して「技能士」の称号を手にししました。創設当初からの合格者の累計は7,337,788人にのびます。

2019年度を等級別にみると受検者が最も多かった等級は2級でした。職種別に見ると受検者が最も多かった職種は、ファイナンシャル・プランニングで、以下、機械保全、機械加工、機械検査、プラスチック成形と続いています。

◆等級別の実施状況

等級 (技能検定の合格に必要な技能及び知識)	受検申請者数 (前年度比)	合格者数 (前年度比)	合格率 (前年度)
特級 (管理者又は監督者に必要な技能及び知識)	4,900人 (-7.3%)	670人 (-59.5%)	13.7% (31.3%)
1級 (上級の技能労働者に必要な技能及び知識)	96,157人 (+3.0%)	29,728人 (+0.9%)	30.9% (31.6%)
2級 (中級の技能労働者に必要な技能及び知識)	328,805人 (+0.0%)	92,984人 (+3.6%)	28.3% (27.3%)
3級 (初級の技能労働者に必要な技能及び知識)	279,789人 (+4.8%)	133,234人 (+6.1%)	47.6% (47.0%)
単一等級 (等級に区分していない職種で、1級相当の技能及び知識)	2,817人 (-13.0%)	1,525人 (-3.2%)	54.1% (48.7%)
合計	712,468人	258,141人	-

※上記に加え、技能実習生を対象とした検定が有り（基礎級、随時3級、随時2級）、2019年度は158,983人が受検しています。

◆受検申請者数の多い職種（全等級合計）

職種名	受検申請者数	前年度比	合格者数	前年度比
ファイナンシャル・プランニング	474,596人	+5.0%	142,836人	+7.2%
機械保全	38,688人	+4.4%	15,834人	+57.9%
機械加工	26,576人	+8.8%	16,150人	+7.9%
機械検査	19,465人	+12.0%	11,721人	+16.1%
プラスチック成形	19,372人	+29.1%	11,050人	+27.2%

(参考) 厚生労働省報道発表資料 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_12707.html

発行：SESPP事務局（株式会社JTB 霞が関事業部）

『J-Skills News』に関するお問合せ

SESPP事務局（株式会社JTB 霞が関事業部）

〒100-6051 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング23階
 TEL：+81-3-6737-9263 FAX：+81-3-6737-9266
 担当：近藤・横山・岩下・風見
 E-mail：sespp@jtb.com